

がんばっぺ東北 がんばっぺ日本

だがしや楽校ひとりごとダイアリー

東日本大震災支援チャリティー

だがしや楽校 & ライブ & バザー

小さな力を大きな力に！ 山形から元気を送ろう♪♪

山形県山形市発

2011年4月30日（土曜日）午前中晴れ 午後曇り時々雨

【東日本大震災支援チャリティー“だがしや楽校&ライブ&バザー”4日目】

4月9日から4週連続（毎週土曜日）開催してきた東日本大震災支援チャリティー“だがしや楽校&ライブ&バザー”は、いよいよこの日が最終日です。

今回は1週目と同じ、山形市七日町・ほっとなる広場を会場に行いました。ただし、1週目の4月9日は雨にたたられましたので、ほっとなる広場にて実際に“だがしや楽校&ライブ&バザー”を開くのは、今回が最初で最後になります。

この日は朝から青空が広がりました。

ほっとなる広場は、山形市の中心商店街・七日町の一角にあります。様々なイベントが頻繁に開かれており、中心市街地のにぎわい作りに貢献しています。周囲は、老舗のデパートや商業ビル・テナントビルが建ち並び、人間が造った都市空間ですが、青空が広がりますと、室内では味わえない気持ち良さを感じます。“自然”を感じます。

このまま天気が持てば良いのですが・・・。

それでは、“だがしや楽校&ライブ&バザー”4日目（最終日）の様子をご紹介します。

《バザー》



この日は東北芸術工科大学の Ishi さんがおみせ番です。さすがは Ishi さん、おみせに訪れる人たちとのコミュニケーションを大切にしていました。



《Koi 鯉 アート のぼり》

今回の“だがしや楽校&ライブ&バザー”では、注目の屋台のひとつ。それは、東北芸術工科大学（の学生さん）による屋台“Koi 鯉 アート のぼり”です。私（山口）も初めてですので、片桐さん（東北芸術工科大学）からご紹介していただいたものでお伝えします。

“Koi 鯉 アート のぼり”は、福島大学の渡邊真一先生（芸術による地域創造研究所長）が発案しました。福島の避難所を中心に取り組んできたプロジェクトで、それが県内外にも広まっています。

“Koi 鯉 アート のぼり”に共感したのが、東北芸術工科大学・美術科洋画コースの青山先生です。この日は、青山さんも会場に来られました。

“Koi 鯉 アート のぼり”とは、参加者に布製の鱗に絵やメッセージを描いてもらい、それを大きな鯉のぼりに縫い付けていくものです。鱗には、それぞれの思いや希望を文字や絵で描いていきます。つまり、子どもも大人も自分たちの手で鯉のぼりを作っていくのです。自ら生み出すのです。子どもたちにとっては、人と人とのつながり、人との関係をつくる場となります。また、自分の思いを「発信する」ことによって、「発信する」ことの大切さを学び、地域・社会は自分たちが作っていくものであることを育む場、という願いを込めたプロジェクトです。

山形でも青山さんが、避難所である山形市落合総合スポーツセンターで、被災者・ボランティアスタッフ・行政関係者などを対象に実施しました。この日は、その鯉のぼりに“だがしや楽校”を通して、山形市民の思いを付け加えてもらおうと屋台を開きました。

東北芸術工科大学では、大震災の発生により、被災者への支援について、いち早く模索を始めましたが、“Koi 鯉 アート のぼり”は、その思いとマッチングした形となりました。



注目の屋台をあって、通りすがりの人も、大人も子どもも、思い思いに鱗に描いていました。

大震災があって、山形市の人たちにも伝えたいものがあるのでしょうか。それは大人ばかりではありません。子どもたちも同じです。

子どもたちにとっても、自分の思いをなかなか表現しにくい世の中になってしまった今、とても貴重な場であり、素晴らしい取り組みに感じました。



右の写真は、描かれた鱗を鯉のぼりに縫い付ける青山さんです。



これが描かれた鱗です

鯉のぼりは、このあと福島に送られ、5月1日から開催される福島ビエンナーレで、各地で作られた「鯉 アート のぼり」が集まり、福島市内に展示されたそうです。

鯉のぼりが泳ぐ大空は、ひとつにつながっています。山形も被災地も、ひとつの青空の下につながっています。“だがしや楽校&ライブ&バザー” 4日目は、青空の下で始まりました。



《魚釣りゲーム》

今回はなんと！“すぎなみ大人塾”受講者によるおみせが登場しました。

おみせを出したのは、平成21年度すぎなみ大人塾・昼コースの受講者・海老沼さんです。山形県高畠町出身の海老沼さんは、2009年11月7日の“杉並だがしや楽校 in 妙法寺”で、山形名物・イモ煮の屋台を出されていましたので、私（山口）にとっては、受講者の中でも最も印象に残っている方の内のひとりです。

その海老沼さん、連休を利用し、家族で宮城県や茨城県を訪問することにしましたが、インターネットで“だがしや楽校&ライブ&バザー”を知り、山形まで足を伸ばされ、おみせを出すことにしたのです。これだけでも海老沼さんの“だがしや楽校”に対する思い入れを感じます。

海老沼さんのおみせは、すっかりお馴染みになった布製のお魚を釣るゲームです。魚は“すぎなみ大人塾”受講者の人たちの手作りです。布の切れ端を利用したモノ、カラー軍手を利用したモノです。



海老沼さん、会場に訪れた山形の人たちとも熱心に交流されていました。また、“だがしや楽校 & ライブ&バザー” 終了後のスタッフによる懇親会にも参加され、親睦を深めていました。



また、5月21日開催の大人塾発表会（会場：セッション杉並）の広報にも努められていました。長旅でお疲れだったと思いますが、アクティブに活動されていたのが印象的でした。

《楽描き》

野外でしたので、毎月第2日曜日に開いている“楽描きだがしや楽校”を“だがしや楽校&ライブ&バザー”の中で行うことができました。



この日は、東海林さん・近藤さん、それにボランティアグループ“Smile”の山口さんに

よる楽描きです。



そこに会場へ遊びにやってきた子どもも大人も自由に描き加えていきました。

《交流風景》

この日も会場には、いろいろな人たちが訪れました。



長野県から遊びに来られたという東海林さんのお友だちの人たちです。会場をじっくり見学しながら、遊びも体験していました。そして募金も忘れませんでした。

丹波さんと談笑する黒沼さんが主宰する“ワンコイン 地域力 カフェ”には、丹波さんをはじめ私も含め、多くの“だがしや楽校”仲間が話題提供者として招かれています。

長年のビジネス経験を活かした経営アドバイザーやNPOマネジメントサポート、地域づくり活動など多岐にわたって活躍している方です。



ゆき彦さんと談笑するのは山川喜市さんです。

最近“発見！人間力”という番組でも取り上げられた方です。上山市の酪農家ですが、教育ファームに力を入れています。人は動物の生命をいただいていることを子どもたちに実際に体験してもらおう“いのちの教育”を実践しています。

ゆき彦さんが作った“山川さんちのベゴにげだ”の山川さんは、この方です。



この写真は、東海林さんと学生さんたちが談笑している特に意味のない写真なのですが、実は裏があります。

中央の男性と左の傘を差している男性、そしてこの映像を撮影している私の3人が「山口」なのです。山形だがしや楽校仲間の3人の「山口」が「勢揃いしたのはこれが初めて」と皆さんから指摘されて、この写真も採用になりました。

失礼しました！！



《ライブ》

この日も、丹波さんやゆき彦さんの呼び掛けで、たくさんのアーティストが集結しました。



♪時雨

丹波さんの息子さんがメンバーの“時雨”。4月16日に続いての出演ですが、この日は3人ユニットでのパフォーマンスです。

1人ユニット、エブリーナイトは4月23日に続いての出演です。このあと登場するA調さんのライブでもギターでサポートしていました。



♪エブリーナイト



♪はくもくれん



♪Ita-nee

“はくもくれん”は4月23日に続いての出演ですが、こちらにも妹さんが加わって3人ユニットでのパフォーマンスです。オカリナの音色が響き渡ります。

ところで、今はJohn Denver（ジョン・デンバー）の“Take Me Home, Country Roads”を「ジブリの曲」で“カントリー・ロード”と紹介するんですね。時代を感じてしまいました。

It a n e eさんは、この日も力強い歌声です。



♪ A 調

この日も被災地も山形もひとつの空でつながっているという思いで書き上げた曲「この大きな空はつながっている」をみんなで歌いました。

今回初登場のA調さんは、日本の故郷を感じる曲をじっくり聴かせていました。言葉では表現できない独特の雰囲気です。

さて、A調さんが演奏しているあたりから、ポツリポツリと雨が落ちてきました。

そこで、A調さんの演奏が終わったところで、ライブは一時中断となります。各おみせも撤収しました。しばらく空を見上げながら様子を見ます。しかし、回復する兆しが見えません。

結局、続行することを断念し、この日の“だがしや楽校&ライブ&バザー”は終了しました。

この日は10組の音楽アーティストが集結していただけに、とても残念です。丹波さんが主宰している“いきいきサロン”の人たちや、杉並の海老沼さんも、丹波さんの演奏を楽しみにしていたのですが、叶いませんでした。

それでも、音楽アーティストの人たちは、みんな協力し合って、最後まで音響機材の撤収作業を行っていました。こんなところからも、「音楽の結び付きって凄いな～」と感じました。



雨による中断は残念でしたが、私たち人間は、自然の中で生きていること、自然の中で生かされていることを実感することができました。そんな自然に逆らってはいけないことを、この日集った皆さんが日頃から感じていたのでしょう。気持ちの良い撤収になりました。

3月11日の出来事も、自然から始まりました。私（山口）は、あの巨大地震とは、地球からのメッセージではないかと思っています。そのメッセージとは「怒り」です。

自然からの怒りによって、人災と言える原発事故が引き起こされました。

原発に関することはさておきますが、少なくとも、自然の中で生かされていることを忘れてしまったために、原発事故が引き起こされたことだけは事実です。今回「想定外」という言葉を頻繁に聞きますが、そもそも自然に「想定」はありません。「想定」は人間が勝手につくったものです。

そんなこともあって、この日の“だがしや楽校&ライブ&バザー”で最も印象に残ったシーンのひとつがItaneeさんのライブでした。この日彼は「怒り」をテーマにした自作曲を披露されました。

人は「喜怒哀楽」という感情を持っています。しかし、あの3月11日以降、「喜怒哀楽」を出せない人たちが大勢おられます。特に子どもたちです。親が、大人たちが、大変な状況に置かれていることを感じ取っている子どもたちは、自分の言いたいこと・伝えたいことを出すことができず、感情を抑えているのです。

こうした子どもたちをケアする支援活動も活発になっています。だがしや楽校だがしや倶楽部（山形県鶴岡市）が中心になって取り組んでいる被災地での支援活動は、ある意味、子どもたちの感情発散の場とも言えます。

◎哀・・・大震災によって、人は哀しみました。こんな時は大いに泣くことです。私も泣きました。みんな泣きました。しかし、泣くことさえできない人もおられます。

◎喜・・・大震災が起きても、春は訪れました。人は春の訪れに喜びを感じました。しかし、厳しい現実には、喜びを感じることもできない人たちは大勢おられます。

◎楽・・・だがしや楽校の被災地での支援活動は、まだまだ小さいかもしれませんが、子どもたちに「楽」をもたらしました。小さな「楽」が少しずつでも大きな「楽」につながるように。

そして

◎怒・・・Itaneeさんのライブから感じたのは、怒の感情を押し殺している人が、まさに大勢いるのではないかと、ということです。

私たちはもっと感情を露わにしても良いと思うのです。

そういう意味でも“だがしや楽校”の「自分みせ」は、とても意味があるのです。“Koi 鯉アート のぼり”と同じ意味を持っていると感じました。

私が最近気になっているのは、あえて「自分みせ」をしない人が多くなっているのではないかと、ということです。さらに申せば、「自分みせ」に条件を付ける風潮が出ているような感じがするのです。

「今こそ“絆”が大切」と言います。それでは“絆”は何でしょうか。

“絆”の大切さはわかっています。しかし、本当の意味でも“絆”がわかっていないにもかかわらず、安易に“絆”という言葉が使われているようにも感じます。

“だがしや楽校”の「自分みせ」とは何か、なぜ「自分みせ」なのか、今回の大震災を受け、また“だがしや楽校&ライブ&バザー”を通して、私（山口）は、さらに学ばなければならないのであります。

さて、ここまで音楽から感じた「喜怒哀楽」について申し上げましたが、“だがしや楽校&ライブ&バザー”を通して、音楽の力をあらためて感じました。

音楽の「力」「だがしや楽校」の「まったり感」。このなんとも言えない不思議な雰囲気醸し出されたのが“だがしや楽校&ライブ&バザー”でした。

丹波恵子さんは言います。

何か・・・やらないと、やりたい・・・と思いがけず声を掛けさせていただきましたが、今回感じました事は、このたびのような時こそコラボれるものが「だがしや楽校」と感じました。

音楽だけではあの、まったり感はなかなか成し得ないものです。また、まったり感があるからこそ4回成し得たのではないかと感じました。

音楽で参加された皆さんも、「なんかいいよね～」と参加した有意義さを感じていらっしゃる、皆さんとても良い企画だったと言ってくださっていますし、「だがしや楽校」ってこういうことかと発見されたようでした。本当にやってよかったですと感じました。

これは、私（山口）は気付かない、音楽をやっている人たちならではの視点での振り返りです。ここでも私は大きなことを学ぶことができました。

だから、“だがしや楽校&ライブ&バザー”に関わったすべての皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございました。

それでは、4回の“だがしや楽校&ライブ&バザー”について、私なりに簡単に総括したいと思います。

● “だがしや楽校”のまったり感が出ていて良い雰囲気でした。

丹波さんの振り返りにもありましたが、これは多くの人たちが言っていることです。

● 山形のパワーを再発見しました。

普段は「おとなしい」とされる山形人も、やるとなったら、4週連続というハードな企画も実行してしまいました。

● 音楽のパワーも感じました。

山形にも音楽を愛する人たちがたくさんいます。また、回数を重ねていく内に、パワーアップしていく様子を体感することができました。

●日によっても私の感じ方が違いました。

まったり感と音楽のパワーの中にも

4/16 は感動でウルウル

4/23 は前日石巻へ行ったこともあり「元気」を感じ

4/30 は雨が降り中断したことで、自然の中で生きていることを感じました。

●新たなつながり（交流）ができました。

音楽とだがしや楽校とのつながりです。

●同じ“だがしや楽校&ライブ&バザー”でも、屋内と屋外との雰囲気の違いを感じました。

4/30 は野外だったので、いつもの楽描きができました。

そして、“だがしや楽校&ライブ&バザー”をひと言で申しますと、「やって良かった」。

《報告》

4回の“だがしや楽校&ライブ&バザー”にて集まった義援金：88,949円は、同日“山新放送愛の事業団”に寄託しました。



2011年4月30日：メディアタワー（山形市）にて撮影

東日本大震災支援チャリティー“だがしや楽校&ライブ&バザー”

完

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター

◎ 4月9日の1日目はこちら↓

http://web.me.com/okitama_radio/nikki2011/110409nikki.html

◎ 4月16日の2日目はこちら↓

http://web.me.com/okitama_radio/nikki2011/110416nikki.pdf

◎ 4月23日の3日目はこちら↓

http://web.me.com/okitama_radio/nikki2011/110423nikki.pdf